

2. 事業の概要と成果													
(1) 上位目標の達成度	【上位目標】 対象地域における公共図書館の児童サービスが改善される 二年次の対象地域となったタヤワディ県公共図書館ではピー県同様にこれまで読み聞かせ活動や絵本の配架など児童サービスが全く実施されてきていなかったが、図書館員および情報局職員は専門家による研修会を通じて、児童サービスに関する知識・技能を習得し、その後の実践の中で技術向上を図り、読み聞かせ活動を中心とした定期的なサービスを実施できるまでに至った。これまで図書館に通っていなかった児童が図書館を利用するようになったほか、図書館に通えない児童のために小学校へ移動図書館活動を実施し、読書の機会を提供した。同活動を通じて児童スペースの存在を知り図書館に通うようになった児童もあり、利用者数が増加した。												
(2) 事業内容	(ア) タヤワディ県公共図書館（8 館）の児童サービスの改善及び移動図書館活動 * ピー県公共図書館（6 館）への図書配布、研修等も継続 （1）図書館員児童スペースの設置を行う。（児童スペースは、既存の図書館の一部スペースを利用するが、本棚やテーブルなどを設置し、飾り付け等も工夫した利用しやすい空間作りを目指す） タヤワディ県 8 公共図書館と事前に児童スペース設置場所の検討を行い、研修会実施前に場所が確定した。各図書館の建物のサイズや様式が異なることから統一した空間確保は難しく、椅子を設置する代わりに、狭いながらも空間を有効活用できるように移動可能な、床に座れるタイプのテーブルを設置した。昨年のピー県での経験を踏まえ、設置準備はほぼ順調に進み、当初予定していた 11 月よりも 1 ヶ月早い 10 月上旬に 8 公共図書館での児童スペース設置を完了し開館することができた。ピー県においては、10 月に新たな本棚一式を各図書館に設置した。 利用者数は以下の通りである。 <table><tr><th>活動地</th><th>活動年数</th><th>利用者数</th></tr><tr><td rowspan="2">ピー県</td><td>1 年目</td><td>7,159 人</td></tr><tr><td>2 年目</td><td>10,258 人</td></tr><tr><td>タヤワディ県</td><td>1 年目</td><td>14,679 人</td></tr></table> 2）児童図書（国内で購入可能な小説、雑誌、植物や動物といった薄手の図鑑など）の供与を行う。（各館に 400 冊ずつ配布。国内購入他、本事業で出版する絵本、日本からの絵本を含む） ●タヤワディ県：児童スペース設置時に国内購入の児童向け図書 514 冊、タイからの絵本 92 冊、日本からの絵本 180 冊、本事業で出版した絵本 75 冊、教育図書出版 20 冊、合計 881 冊を各図書館へ供与した。 ●ピー県：国内購入の児童向け図書 210 冊、タイからの絵本 50 冊、日本からの絵本 148 冊、本事業で出版した絵本 75 冊、教育図書出版 20 冊、合計 503 冊を供与した。 ※購入冊数は、タイおよび国内購入において出版社、書店の配慮により当初予定より廉価となったため、配布冊数を追加した。		活動地	活動年数	利用者数	ピー県	1 年目	7,159 人	2 年目	10,258 人	タヤワディ県	1 年目	14,679 人
活動地	活動年数	利用者数											
ピー県	1 年目	7,159 人											
	2 年目	10,258 人											
タヤワディ県	1 年目	14,679 人											

(3) 図書館員向けの児童サービスに関する研修会（対象者は図書館員 12 人及び郡情報文化局職員 6 人の計 18 人、専門家を講師とし 5 日間の研修）を行う。

2015 年 8 月に日本から図書館専門家を招聘し、ピー県（6 館）およびタヤワディ県（8 館）にて図書館員向け児童サービスに関する研修会を行った。ピー県は研修会実施前に専門家と各図書館を訪問し、児童サービス開始 1 年後の状況把握を行ってもらい、改善提案また技術的指導を受けた。ピー県では 8 月 13 日～14 日の 2 日間、タヤワディ県では 8 月 16 日～20 日の 5 日間に実施した。ピー県のプログラムは「子どもとできる文化活動（身の回りにある材料を活用したゲームなど）紹介」「パネルシアターの意義と作成、演技方」「図書館でおこなう読書推進活動」など、1 年が経過した児童サービスの活動向上を目指し、実技指導の多い内容となった。タヤワディ県は、昨年のピー県で行った図書基礎研修の内容をベースに実施したが、ピー県での経験を踏まえ、「ライフスキル」「児童書の分類」など新たな内容も加え、全体として充実したプログラムとなった。研修参加者は、ピー県は情報局職員 7 名、図書館員 6 名の計 13 名、タヤワディ県は、情報局職員 9 名、図書館員 12 名（アシスタント含む）の計 21 名であった。

(4) 図書館合同による四半期及び年次会議の開催

活動の成果や課題を共有し、また課題解決やサービス改善に向けて図書館間の相互扶助を目指し、能力強化を図っていく。

2015 年 10 月、2016 年 1 月、4 月及び 7 月に図書館合同会議を開き、児童サービスに関する実施状況、成果や課題、今後の対応策などについて各図書館による発表、今後の改善取組みに向けた話し合いを行った。7 月の第四四半期会議においては 1 年間の振り返りを各県にて行い、最終年となる 3 年目に向けたサービス改善への取組みなど活発的な協議を行った。

(5) 図書館運営体制の構築支援

コンピューターの活用を通じた図書館運営（図書の貸し出し数、移動図書館活動の参加人数などのデータの集計、文化活動案内のちらし作りなど）を支援した。

タヤワディ県 8 公共図書館にてコンピューター 2 台およびプリンター 1 台を 2016 年 1 月に供与した。コンピューターの使い方については、各図書館において情報省からの研修機会また各図書館主体による学びの場を提供してもらうこととなった。児童スペースの利用者数データ、移動図書館活動月次スケジュール作成など、ピー県も含めて行ってきた。

(6) 図書館にアクセスできない児童やコミュニティのためのバイクによる移動図書館活動を行う。

●タヤワディ県：ピー県でのデザインを踏まえつつ、本の重量に耐えうるエンジンがより大きい三輪バイクを選び、また本棚の設置強化ため一部仕様を変え製作を行った。昨年と同じ業者への発注だったことから、完成までの行程も順調に進み、当初予定していた 1 月よりも 1 ヶ月早い 12 月中に 8 公共図書館に移動図書館バイクを届

け、2016 年 1 月から対象となる小学校に対し、移動図書館活動サービスを開始した。月平均 5～6 回の頻度で巡回を行い、読み聞かせ、ゲームや歌、読書タイムのプログラムを提供した。

●ピー県：引続き、移動図書館活動を実施。月平均 3～5 回の頻度で実施し、タヤワディ県同様にプログラムを提供。ピー県はすでに 1 年が経過したことから、図書館員、情報局職員の移動図書館活動への理解、実技が高まってきており、図書館主体による実施可能なレベルになってきている。

利用者数は以下の通りである。

活動地	活動年数	利用者数
ピー県	1 年目	4,741 人
	2 年目	22,520 人
タヤワディ県	1 年目	19,301 人

（イ）児童図書の制作

カウンターパートであるミャンマー作家協会との共催で「友情」をテーマとした絵本製作は計画した 6 タイトル分が 2016 年 2 月までに全て完成し、その後、情報省情報広報局を通じて全国の公共図書館への配布を開始した。第 3 回目絵本コンクールのテーマは「平和」と決定し、現在応募作品の受付を行っている。3 月には「紙芝居製作」をテーマに第二回児童図書出版研修会を開催した。昨年からの継続参加者と新規参加者を交えた 25 名を対象として行った。内 5 名は絵本コンクールの入賞者であった。5 日間の研修会にてグループワークによる作品を 5 タイトル完成し、最終日には寺院学校の協力の下、児童たちの前で各作品を披露する機会を提供した。児童から直接の反応を受け、製作した紙芝居の成果を体感する貴重な場となることができた。また完成した 5 タイトルの紙芝居はピーおよびタヤワディ県の 14 公共図書館に配布。研修会で専門家から指導を受けた「紙芝居の意義、使い方」講義を当会の図書館スタッフにより対象の 14 公共図書館向けに実施し、その後館内での児童サービスおよび移動図書館活動にて活用された。

（ウ）教育図書のビルマ語出版

情報省出版公社との協同のもと、対象図書「地球」のミャンマー語翻訳の応募を 10 月から 2016 年 1 月上旬まで実施し、27 人から申込みがあった。その後、同公社翻訳課による第一次審査後、外部審査員、当会合同にて第二次選考会を行い 2 月に入賞者が決定した。3 月に入賞授与式を開催。その後、出版印刷に向けた編集作業を開始し、7 月に 8000 部の印刷が完了。情報省情報広報局への贈呈を終え、全国の公共図書館への配布を開始した。

（3）達成された成果

（1）公共図書館の児童サービスが開始されている

1. 14 館の公共図書館にて児童図書の数が増え、読書習慣が改善される。

（指標）

●ピー公共図書館

2 年目：1 年目から約 60%増加（1 館につき 400 冊⇒650 冊、250 冊が増加）

→ 計 589 冊（約 147%）増加。内訳：国内購入の児童向け図書 210 冊、タイからの絵本 50 冊、日本からの絵本 148 冊、本事業で出版した絵本 75 冊、教育図書出版 20 冊、移動図書館活動用図書 86 冊。

●タヤワディ公共図書館：0 冊⇒400 冊増加（国内購入 250 冊、出版絵本 60 冊、教

育図書出版 10 冊、日本からの絵本 80 冊)

計 967 冊増加。内訳：国内購入の児童向け図書 514 冊、本事業で出版した絵本 75 冊、教育図書出版 20 冊、日本からの絵本 180 冊、タイからの絵本 92 冊、移動図書館活動用 86 冊を児童スペース設置時に配架。

両郡の公共図書館において、モニタリングを通じて、「定期的に通ってきている子どもたちが新たな本を読むようになった」、「特別活動で好きな絵本のお話を周りの子どもたちに向けて披露するようになった」などの声が聞かれ、読書習慣の改善も確認された。

2. 図書館員による児童サービス活動が改善している。

(指標)

2 年目：7 割以上の図書館員が児童サービス活動の実践に必要な知識、技能、態度を有している。

●ピー県：アンケートとモニタリングの結果、事業 1 年次の研修に参加したピー公共図書館員のうち異動となった 1 名を除く 6 名中 5 名 (83%) が、研修で学んだことを活かして児童サービスに従事していることが確認できた。1 年目の児童サービス基礎研修を踏まえ実践内容を中心とした実務研修であったが、参加者 13 名中 (内図書館員は 6 名) に対し理解度、満足度、新たな技能や知識の習得度、日常活動への実践度についてアンケートを行ったところ全員より 5 点満点中 4 点以上となる「高い」との回答があった。また講師である図書館専門家によるモニタリングを通じて、昨年度研修の 1 年前と比較して図書館員が大きな声で読み聞かせができるようになっており、お話し会などで披露する機会が成長に繋がっている点を上げた。モニタリング時での声として「図書館員は最初、読み聞かせやアイスブレイクを恥ずかしがっていたが、徐々に慣れてきて、子どもの接し方も円滑になってきている。」、「読み聞かせは子どもたちも先生も興味をもっているのもっと「おおきなかぶ」のような参加型の絵本を紹介したい。」、なども上げられた。

また各図書館へのモニタリングを通じて、日常サービスの実施や読み聞かせ活動の状況を把握する中で児童サービスの理解度の高まりを確認した。特に子どもたちへの接し方、コミュニケーションの方法、および読み聞かせや文化活動の意義を理解し、より積極的に活動に取り組んでいることがモニタリングにより確認された。

1 年目：5 割以上の図書館員が児童サービス活動の実践に必要な知識、技能、態度を有している (事業開始前は 0 割。過去に研修を受けたことがないため)

●タヤワディ県：アンケートとモニタリングを通じ、8 館の公共図書館に配置された図書館員計 8 名 (1 名/館) が図書館研修に参加、その後全員 (10 割) が研修で学んだことを活かして児童サービスに従事していることが確認された。過去に当会が目指す児童サービスについての研修は行われていなかったことから、1 年目は知識、技能などを備えていないと設定し、開始後、半数以上の図書館員の改善を目標とした。児童サービス基礎研修会に参加した参加者全 21 名中 (内図書館員は 8 名) に対し理解度、満足度、新たな技能や知識の習得度、日常活動への実践度についてアンケートを行ったところ全員より 5 点満点中 4 点以上となる「高い」の回答があった。その後のモニタリング実施の中でも、定期的なお話し会プログラムの実施や文化活動紹介などが各図書館にて行われていることを確認した。

3. 児童利用者数（図書館及び移動図書館）が事業開始前比で増加している。
（指標）増加率 1年目：10% 2年目：20% （児童サービスが行われていなかったことからスタート時をゼロとして増加率を設定）

●ピー県：2年目

1年次から2年次の利用者数の増加率は175%増。（1年目の児童利用者数：11,900人、2年目：32,808）

●タヤワディ県：1年目

1年目（2015年7月～2016年7月）の児童利用者数は33,980人となった。

4. 児童のライフスキルが改善している

（指標）

知識（言葉（母語）や情報、道德等）、態度（人の話を聞いたりする意欲、他者や世界について関心を持つ等）、技能（思考力、コミュニケーション能力）等の変化

利用児童の変化について、ランダムサンプリングで抽出されたピー県とタヤワディ件両県の対象公共図書館に通う子どもの保護者14名に聞き取りを行ったところ「対人コミュニケーションの改善」「態度の変化」「言葉使いの改善」「知識の向上」といった変化が見られているとの回答を得た。

5. 図書館員による移動図書館活動が定期的に行われている

（指標）

2年目：7割以上の図書館員が移動図書館プログラムを実施できている

●ピー県：月次モニタリング、対象小学校からのフィードバックを通じて、1年目の事業対象公共図書館員全6名のうち、異動した1名を除く5名（83%）が移動図書館プログラムを実施できていることを確認した。モニタリングでは、自発的に実施回数を増やす図書館もみられ、移動図書館プログラム実施の発展性も確認された。

1年目：5割以上の図書館員が移動図書館プログラムを実施できている

●タヤワディ県：月次モニタリング、対象小学校からのフィードバックを通じて、事業対象公共図書館員全8名全員が、移動図書館プログラムを実施できていることを確認した。モニタリングでは、自発的に実施回数を増やし、サービス提供の拡大を図る努力を行う図書館も観察された。

（2）児童図書の作家、イラストレーター、編集者への能力強化が行われる

（指標）

2年目：参加者の7割以上が児童図書出版に必要な技能、知識を有している

研修会終了時のアンケート結果では、研修会参加者20人から理解度、満足度、活用度において5点中平均4.5点となる高いとの回答を得た。1年目からの継続の参加者は9人であり、フィードバックにおいて「新たな知識を得た」、「児童図書出版についてより理解が深まった」、「こういった絵の手法が子どもにとって愛されるのかが理解できた」、「紙芝居は児童文学として有効更にミャンマーに適したものであると思った」、「児童文学発展のための技法を理解したため、活用していきたい」との纏めがあり、研修会において新たな技能や知識を得たことが確認できた。

	(3) ミャンマー翻訳協会との共催で翻訳コンクールを行い、ビルマ語の教育図書が出版される (指標) 2 年目：図書館、移動図書館を利用する児童の 6 割以上が出版された教育図書を利用している 配布後間もないため、利用者データの取得不可。出版された教育図書は児童スペース内および移動図書館活動にて活用されたが、モニタリング時に移動図書館活動対象先の学校の教員からは、参考書や補助教材が不足している中で、教育図書は子どもたちにも人気があり、学校にも配架したいというコメントも複数聞かれた。
(4) 持続 発展性	1 年目対象のピー県同様にタヤワディ県での移動図書館活動実施に係る移動図書バイク運転手や維持管理費は一部ではあるものの、情報省より予算配分された。また移動図書館活動用の図書購入も不定期ではあるが情報省より行われてきている。